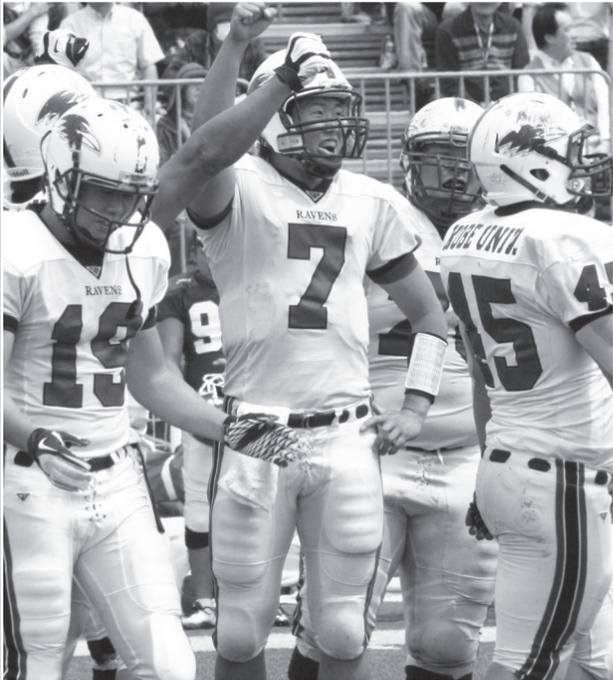


強豪立命から勝利

リーグ戦に弾み アメフト部

アメフト部は6月16日の龍谷大戦に勝利、春を締めくくった。結果、春の7試合を終えて5勝1敗1分。立命館大からの勝利など、秋のリーグ戦に向け収穫もあった一方、課題も見えた春シーズンとなった。

今春最大の収穫は、強豪大は6位からの勝利に選立命を下しての勝利だ。立命も自信を得ただろう。逆転への足がかりとなるTDを獲得したWR岩本文(4年)は「対戦が決まった時から、立命戦を目標にやっていた。結果が出てよかったと話した。主将のDL白石(発達・4年)も「今日の勝利は、めげずに



立命戦に勝利し、喜び選手たち(5月13日・エキスポラッシュフィールドで 撮影=石橋雄大)

取り組んできた結果だと思う」と「打倒立命」という目標達成へ向け、チームで培ってきた努力をうかがわせた。

白石は春のテーマとして「ボールへの執着心」を掲げていた。オフフェンスではキックミスが減り相手にボールを渡さないこと、ディフェンスではより積極的にボールを奪いに行くことをチームに求めている。しかし、近畿大戦では、序盤第1Qに失点につながるインターセプトを献上、桃山学院大戦では、4つのターンオーバーを許した。白石は桃山学院大戦に関して「試合には勝ったが、4つもターンオーバーが出たら、普通は負けている」と勝利するも内容に関して厳しい反省をした。萬谷ヘッドコーチも「オフフェンスで安易にボールを渡してしまふ」と指摘。いかにボールを支配できるかが、リーグ戦の結果を左右する一因になりそうだ。



けがから復帰した羽星(5月26日・王子スタジアムで 撮影=植田実希)

また、春はフィジカルの強化にも取り組んだ。選手たちは、授業のない空き時間、春シーズンを終えて、チームは秋のリーグ戦に向けて動き出した。萬谷ヘッドコーチはリーグ戦に関して「先を見据えるというより、1戦1戦臨む」と必勝の構え。白石は「初戦の関西大戦に勝って、勢いに乗りたい」と早くも闘志を燃やした。

また、春はフィジカルの強化にも取り組んだ。選手たちは、授業のない空き時間、春シーズンを終えて、チームは秋のリーグ戦に向けて動き出した。萬谷ヘッドコーチはリーグ戦に関して「先を見据えるというより、1戦1戦臨む」と必勝の構え。白石は「初戦の関西大戦に勝って、勢いに乗りたい」と早くも闘志を燃やした。

また、春はフィジカルの強化にも取り組んだ。選手たちは、授業のない空き時間、春シーズンを終えて、チームは秋のリーグ戦に向けて動き出した。萬谷ヘッドコーチはリーグ戦に関して「先を見据えるというより、1戦1戦臨む」と必勝の構え。白石は「初戦の関西大戦に勝って、勢いに乗りたい」と早くも闘志を燃やした。

タッチフット 勝利は秋へ持ち越し

第21回シュガーボウルTOUCHDOWN杯争奪タッチフットボール日本選手権

第21回シュガーボウルTOUCHDOWN杯争奪タッチフットボール日本選手権が6月17日、横浜スタジアム(横浜市中区)で行われた。神戸大ROOKSは初戦、ONEPACK(関西一般2位)に先制点をとられるもチームの力を活かして27-12で勝利。続く準決勝、昨年覇者関西AWILLI(関西一般1位)に20-27で敗れ、3年ぶりの決勝は届かなかった。

準決勝、AWILLIは前々回と同前を制した強豪チーム。開始早々、相手に先制されるが神戸大もすぐに反撃し攻防が続く。ST失敗により相手の2点リードで迎えた第3Q、QB山崎(発達・4年)からWR谷端(発達・2年)の30ヤードを超えるパスプレーで逆転。中盤相手のTD直後、山崎はQBが投げた緩いボールを見逃さなかった。相手のSTを利用してインターセプトSTで同点を決める。第4Q終了35分、横浜スタジアムで



パスプレーでTDを決めたWR谷端(6月17日・横浜スタジアムで 撮影=松永とことみ)

最速タイム
漕艇部優勝

第60回神戸大・大阪市立大定期戦、及び第28回回三商科大定期戦が6月3日、大阪府立漕艇センターで行われた。神戸大は女子対校クオドルプル、男子三商エイト、男子対校エイトの主眼どころで全て1位を取り、見事定期戦、及び三商戦で優勝した。その中でも男子対校エイトでは神戸大の歴代最高タイムとなる5分58秒62をマーク。大阪市大を約14秒も引き離し、優勝した。

今年度の神戸大の強さの要因について「下の学年との争いが激しい。お互い切磋琢磨しているから」といい結果が出ている」と対校エイトストローク加藤主将(経済・4年)は話した。下の学年であるメンバーは三商エイトにて、6分5秒18という好タイムで優勝している。その差は約7秒。これではベストメンバーもつかつかしてられない。6月30日、7月1日には関西選手権が行われる。初優勝に向け彼らはまだまだタイムを磨いていくよう

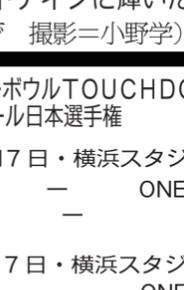
また、春はフィジカルの強化にも取り組んだ。選手たちは、授業のない空き時間、春シーズンを終えて、チームは秋のリーグ戦に向けて動き出した。萬谷ヘッドコーチはリーグ戦に関して「先を見据えるというより、1戦1戦臨む」と必勝の構え。白石は「初戦の関西大戦に勝って、勢いに乗りたい」と早くも闘志を燃やした。

飛躍と課題の3位

硬式野球部

近畿学生野球連盟1部春季リーグが4月1日から5月17日まで開催され、神戸大は8勝5敗で3位に終わった。昨年の秋季リーグで2部から1部に昇格したばかりの神戸大。「2部から上がったばかりにしては善戦」と唐沢主将(経営・4年)は振り返るが、同時に「本気で神宮を目指して

いただけに行けなかったのが悔しい」とも話した。4季ぶりの1部での戦いを振り返ると、まず圧倒的な投手力に目がいく。左右のエース、白木原(発達・4年)と赤木(工・3年)の2人でほぼ投げ抜いたが、驚くべきはその防御率だ。白木原は0.599、赤木は1.918。平均すると1試合あたり1.30点しか失点していないことになる。「投手力はリーグ随一」と中村監督もその投げっぷりを絶賛した。一方課題としてあげられたのが打線。投手陣の防御率に対して8勝5敗という結果は打撃陣に対し物足りなさを感ずるを得ない。「ある程度の投手は打ち込



春季リーグベストナインに輝いた白木原(5月17日・豊中ローズ球場で 撮影=小野学)

める。だが、少しレベルが高い投手になると全く打てなくなる」と中村監督。そのためにこの夏は打撃練習に明け暮れるようだ。秋季リーグで神宮大会に行かぬためには、1部で優勝したのち、さらに関西5連盟での戦いを制さなければならぬ。しかし春季リーグを振り返ると、神戸大はどのチーム相手にも1勝はしているという面白いデータがある。また可能性は十分ある。秋季リーグでの神宮大会出場に向け、彼らは日々練習を続けている。

【小野学】



春季リーグベストナインに輝いた白木原(5月17日・豊中ローズ球場で 撮影=小野学)

- 第21回シュガーボウルTOUCHDOWN杯争奪タッチフットボール日本選手権
 - ▽1回戦(6月17日・横浜スタジアム)

神戸大 Rooks	—	ONEPACK
27	—	12
 - ▽準決勝(6月17日・横浜スタジアム)

神戸大 Rooks	—	ONEPACK
20	—	27
- 関西フットサルリーグ第1節(5月12日・高砂市総合体育館)

神戸大	1	0-1	3	SWH Futsal Club
				1-2
- 関西フットサルリーグ第2節(5月19日・京都府立体育館)

神戸大	1	1-2	3	funf bein KYOTO
				0-1
- 関西フットサルリーグ第3節(6月9日・和歌山市民体育館)

神戸大	1	0-0	1	VAXA高槻
				1-1
- アメリカンフットボール春季リーグ2012

vs 大阪教育大	○	24-22
vs 甲南大	△	13-13
vs 横浜国立大	○	45-0
vs 立命館大	○	21-16
vs 近畿大	●	13-23
vs 桃山学院大	○	35-3
vs 龍谷大	○	28-22
- 近畿学生野球連盟1部春季リーグ

vs 奈良産業大	●	1-2	○	6-5	●	1-4
vs 大阪工業大	●	0-2	○	3-0	○	4-0
vs 大阪大	○	3-2	○	2-0		
vs 大阪教育大	○	12-0	●	1-2	●	1-2
vs 大阪市立大	○	5-1	○	7-0		